

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況(任意)
1	4・10	入居者、家族、職員間において、コミュニケーションを図る場面を増加し、相互理解を深めると共に、それぞれの本音を引き出す機会も増やす。また運営推進会議時に、地域代表や行政が意見し易い体制づくりを行う。	普段から、家族が来館し易い雰囲気づくりを心掛けると共に、職員に対し本音を言える環境を整備する。また声掛けやその他周知により、施設イベント時における家族の参加率を上昇させ、施設との交流、結びつきを深める。	施設の大きなイベントだけでなく、誕生会(おたのしみ会)や食事会といった定期的に開催しているイベントについても、家族に声掛け、周知し、気軽に来て頂く空間づくりを行う。また運営推進会では、机上の会議だけでなく、施設設備や実際の介護現場を見て頂き、様々な意見を頂ける様、工夫する。	12 か月	
2	15	外部研修への参加機会が少なく、必要な知識や実践力を習得し難い。施設内部研修については、年間計画を立て併設施設と合同で開催しているが、内容が介護、認知症と概論が多い為、グループホームあやめの実情に即したものでなく、現場で反映させづらい。	グループホームあやめ施設内外における研修、勉強会を充実させ、認知症、介護技術についての理解、実践力を養う。	施設内部における勉強会を二ヶ月に一回開催すると共に、外部研修への参加機会を増加させ、全職員の認知症ケアにおける意識、知識、技術といった能力を向上させる。	12 か月	
3	37	年2回開催の防災訓練は、併設施設と同一内容で実施しており、グループホームあやめ独自の日中、夜間想定避難訓練は実施できていない。また、地域との合同訓練も行っていない状況である。	不測の災害時においても、職員一人一人が的確な判断、行動が執れるよう、入居者の心身状況について常に把握しておく。また職員の災害意識を高め、入居者の安全性を高めていく体制づくりを行う。さらに日頃から地域、行政と連携を密に取ることで、災害時における協力体制を構築しておく。	入居者一人一人の心身状況(歩行状態、使用福祉機器など)に合わせた個人情報(避難)マニュアルを作成し、災害発生時に備える。また運営推進会議等を活用し、地域住民や行政への協力依頼を行うと共に、実際に訓練に参加して頂き、相互の連携強化に努める。	12 か月	
4	32	入居者家族による通院対応時、職員から家族への申し送りが的確に行えていないことがあり、医療機関との情報共有が不十分ことがある。	職員間で、業務引き継ぎ時における入居者個別毎の情報共有を確実に行う。また普段から家族来園の際、何気ない会話から生活状況、心身状況などを伝え、情報を把握して頂いておく。	職員間の業務引き継ぎ時における申し送りを的確に行う、また連絡ノート等により入居者情報の共有化を確実なものとする。さらに家族、医療機関への確かな情報提供が行える様、個別の情報提供シートを整備しておく。	6 か月	
5					か月	

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。

注3) 外部評価結果の通知を受けた日から概ね30日以内に評価機関に報告してください。

注4) 目標達成状況は任意となっております。期限に定めはありませんので、適宜評価機関に報告してください。

## サービス評価の実施と活用状況表

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		(↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った(予定である)
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市区町村へ説明し、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標達成に向けて取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況(任意)
1	25・28	プランの実行確認表において、従来の書式は三ヶ月毎の様式であり、簡易的なものであった為、モニタリングするには難しく、ケアの統一化も回りづらかった。	入居者のモニタリングから、日々変化する心身状況、特変事項の把握を的確に行うと共に、より細やかなケアの考察、実践を図る。さらに職員間でのケアの統一化を図る。	介護計画、リハビリ計画の書式を変更し、毎月毎の様式への変更、また各担当職員が毎日の気づき等を詳細に記述する。また職員間で各計画書を毎日確認すると共に、相互間での話し合いにより、一体的なケアを目指す。	6 か月	各書式を変更し、毎日の気づき等詳細情報も記述するようにした事で、特変事項の確認、把握、考察がし易くなった。また職員相互間の話し合い、連携を意識する事で、ケアの統一化を図っている。
2	1・10	入居者、家族、職員間において、コミュニケーションを図る場面を増加させ、相互の信頼関係をより強固なものとする。また施設運営の理解を深める。	誕生会やソーメン流し、餅つき等、施設における各イベント時に家族に参加して頂く。また普段から家族の意見を聴取し、反映できる体制づくりを行う。半年に一回程度、施設のイベント毎を兼ねた家族会を開催する。	家族来館時や、運営推進会議開催時にイベントの周知を行うと同時に、普段から来館し易い雰囲気づくりを行う。またイベント時に入居者、家族、職員と一緒に食事やレクリエーションを行うと共に、その時に家族一人一人と会話する時間を取り、悩み等を相談できる環境を整備する。さらに定期的に職員、施設運営に関するアンケートを家族に対して行い、入居者、家族、職員の相互理解を深める。	12 か月	家族へのイベント周知を意識し、参加の声掛けを積極的に行った。また定期的に発行している新聞イベント情報を掲載、掲示を行っている。運動会やソーメン流し、餅つき等施設のイベント時には何組かの家族が来館され、一緒に食事を楽しまれた。
3	37	施設入居者、職員間における防災訓練は、年に二回程度実施しているが、地域住民との合同での災害訓練が満足いくものになっていない。また災害訓練時における近隣住民の応援依頼を行っているが、実践出来ていない。	地域、近隣住民が災害訓練に参加して頂けるよう、連携を図る。また災害発生時にスムーズに避難できるよう、体制を整え強化する。	年二回の消防訓練に近隣住民が多く参加できるよう、日ごろから依頼を呼びかける。また災害訓練の内容修正や技術面の強化、さらに問題点を抽出し、発生時に備える。	12 か月	3月に豊前市、地域住民との合同で災害想定訓練を実施した。また施設単独での防災訓練を年に2回実施し、避難経路や緊急時連絡網について再確認を行った。今後も地域住民にも参加して頂く機会を設けて、連携強化を図っていく。
4	2	施設夏祭りや、地域の大規模なイベント(文化祭等)以外、地域との関わりが、希薄である。	外部と接触する機会を増やし、地域密着型施設としての役割を果たす。まず施設防災訓練時に、地域住民にも参加して頂く。また地域中学生の職場体験に来て頂く。さらに地域小学校のイベント時に見学を行うなど、地域との交流を図る。	地域中学校に職場体験の声掛け、依頼を行う。また小学校関係者、地域区長に依頼し、各年間行事計画を把握し、可能なイベントについては参加を行う。	12 か月	9月に地域中学校への職場体験学習受け入れを行い、交流を図った。また地域行事である敬老会、カボウインパーティーへの参加、また文化祭では入居者が作成した千羽鶴の掲示も行った。
5					か月	

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。

注3) 外部評価結果の通知を受けた日から概ね30日以内に評価機関に報告してください。

注4) 目標達成状況は任意となっております。期限に定めはありませんので、適宜評価機関に報告してください。